

第 13 回
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2006年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成18年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、すぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第13回目となる今年度は、71点の多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞4点を決定いたしました。

受賞作品は、街並み景観と一体化した空間をもち、透明感のある外観デザインの地域交流型の教育施設、複雑な形態でありながら、ヒューマンスケールのランドスケープを作り出している住民交流施設、築100年の質蔵を修復・再生させ、今後のまち並み景観のモデルにもなりうる住宅、自然換気や自然採光を積極的に取り入れ、外観を特徴づける金属製外付けブラインドを採用するなど環境面で様々なチャレンジを試みた教育・研究施設など、いずれも平成18年度の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様の情熱と新しい発想が込められた、これらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

地域の優れた景観や歴史・文化は、社会全体の共有財産であり、建物や街並みにも美しさが求められています。このような認識に立ち、県といたしましても、ユニバーサルデザインによる建築物の整備、環境にやさしい建築物の整備など、県民一人ひとりが安全で安心に暮らせる街づくりを推進しております。

そして、こうした取り組みを通して、人と人との「ふれあい」を大切に、仲良く暮らせる地域社会づくりを、600万県民の皆様と進めていきたいと考えています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員、共催団体など皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
千葉市立美浜打瀬小学校	… 3	とみうら元気倶楽部	… 4
蔵替え(鴨川・質蔵のリフォーム)	… 5	東京大学柏キャンパス 新領域環境棟	… 6
山村邸	… 7	苅込邸	… 7
グループホーム美しの里	… 8	千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館	… 8
応募(推薦)建築物一覧	… 9	千葉県建築文化賞選考委員会	… 9
受賞作品の位置	… 10	千葉県建築文化賞の実績一覧	… 10

応募71点から8点入賞(選考経過と総評)

(選考経過)

第13回千葉県建築文化賞は平成18年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数71点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より21点減少したが、応募作品の水準は高く、特に小規模な作品に佳品が目立った。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門4点、環境部門4点を選んだ。

次いで11月上・中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞4点、建築文化奨励賞4点を表彰候補作品として決定した。

なお、今回も従来と同様、選考の公明性を保つために委員は関係のある建築物については意見を述べず、票を投じないこととし、投票の結果、委員と関係のある建築物が上位を占めた場合は、そのことを確認したうえで表彰候補作品を決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		44	5	3	1
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		12	4	—	2
環境に配慮した建築物		15	4	1	1
合 計		71	13	4	4

(総 評)

景観に配慮した建築物

景観への配慮は、建築物単体のデザイン水準とともに、まちの文脈への的確な応答を必要とする。いわば建築物の総合的な質がそこに反映されている。応募44点は、いずれもこの点への配慮を感じさせるものであったが、今回は住宅や教育施設・公共施設に好感の持てる作品が多かった。

「千葉市立美浜打瀬小学校」は、幕張ベイタウンにおける一連の小学校のデザインを受け継ぎ、まちと連続する開かれた教育の場と、半透明のファサードによる街並み景観形成を両立させている。「とみうら元気倶楽部」は、円筒形の劇場と保健福祉センターを中心とする住民交流施設であり、プランと高さの異なる空間を組み合わせ、田園的景観と調和したリズムカルな表情を生みだしている。「蔵替え(鴨川・質蔵のリフォーム)」は、築100年の質蔵をリフォームした住宅であり、環境部門の応募作品だが、なまこ壁の蔵を丹念に修復し再生させた設計が、今後の町並み景観形成のモデルになり得るとして評価された。この結果、3点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「山村邸」は、佐原の景観形成道路に面した古い商家をミセの間を中心に修復したものであり、伝統的町家の形式をもとにした町並み整備の新しい手法を感じさせる。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は12点であった。ユニバーサルデザインへの配慮が、福祉施設・公共施設というまでもなく、民間施設や個人住宅にも普及していることを実感することができたが、残念ながら今回は建築文化賞の該当なしとした。

奨励賞の「菊込邸」は、築100年の民家を再生し、大屋根をいただく古民家の風情を活かしながら、90代の父親とその息子夫婦のために使いやすく快適な住まいを提供している。「グループホーム美しの里」は、高齢化が進む地域において、いわゆる施設的な性格を抑え、きめ細かな配慮によって、地域に開かれた暮らしの場を設けている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は15点であり、専用住宅、公共施設、教育施設など、幅広い用途の建築物が環境への注意深い配慮を感じさせた。

建築文化賞の「東京大学柏キャンパス新領域環境棟」は、PFI方式を用いて建設されたものであり、省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用、研究活動変化に対応できる柔軟性などを入念に組み込み、デザイン的にも質の高い建築を実現している。

奨励賞の「千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館」は、太陽光発電と雨水利用をはかり、床や壁にリサイクル製品を採用するなど環境に配慮するとともに、瓦屋根の和風平屋建てで緑の多い環境に溶け込んでいる。

選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成13年4月1日から平成18年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨に沿っているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②誰もが公平に、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、社会への参加や日常生活が容易に出来るような環境整備がされているもの。
 - ③エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：千葉市

設計：株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ

施工：新日本・池田工建建設共同企業体

所在地：千葉市美浜区打瀬2丁目

全体の空間を一体化した「オープンスクール」

千葉市立美浜打瀬小学校



西側立面夜景

本施設は、幕張新都心住宅地区内に完成した三校目のオープンスクール形式の小学校で、これまでと同様に街区のデザインコードに従った沿道型で、校門やフェンスのない街と一体化した地域交流型スクールである。

外観はコンクリート打ち放しとブルーのFRPグレーチングスクリーンで構成された透明感のあるデザインで、周辺に優しい表情を映し出している。

建物全体は、2層で120m×80mのワンルーム空間構成とし、6学年の学年ゾーンと特別教室、体育館、管理諸室が流動的に配置され、1階の低学年ゾーンは外部空間と一体化して接地性を高め、屋上プールに接続する大階段は一般住民にも開放される多目的交流空間となる。

4教室を1単位とする学年ゾーンはワークスペースを中心に多様な学習空間が演出され、隣接する階段状の多目的室は学年全員が集まれる学年ハウスを形成している。

オープンスクールの「音」の

問題の解決に当たって、リブ状の吸音装置とガラスの遮音壁を設けて教室間の音の伝達を防ぎ、温熱環境面では、ファンコイルユニットから床下に送られた温風を各室の床面から吹き出して均一な暖房効果を確保しており、建物全体に光と風がみなぎる開放的で快適な生活空間を創出している。

講義型から活動型に移行する教育環境への対応、地域住民との連帯感や将来の施設転用に配慮したこれからの学校建築のあり方を追求し、多様な空間の中で育まれるアクティビティの重要性に拘り続ける設計者の思い入れに深い感銘を覚えた。(明智克夫)



5年生学年ゾーン屋根



低学年学年ゾーン

(撮影/小林浩志)

建築主：南房総市
設計：株式会社榎本建築設計事務所
施工：株式会社熊谷組 首都圏支店
所在地：南房総市原岡88-2

わかりやすい建築

とみうら元氣倶楽部



東側外観全景

とみうら元氣倶楽部は、その形態の複雑さとは裏腹に、わかりやすい建築である。ややもすれば、設計者のデザインへの思い入れから過剰に操作された建築は、そこを訪れるものに混乱を招き、その饒舌な建築の表情に不快感すら与えることがある。とみうら元氣倶楽部も、台形をベースに構成した平面やLVLをつかった木構造は、単純とは言いがたい。富浦ののんびりした景色の中に唐突な難解さが現れるかと思っていたが、実際には、台形の空間を集めたために出来上がった複雑な外周壁はそのへこみや出っ張りによって多様な外部空間を生み出し、単純な芝生の平面にヒューマンスケールのランドスケープをつくりだしている。

また、エントランスの脇には、デッキに続く足湯があり、外部と内部の繋ぎの空間となっている。足湯に腰掛ける人々の姿がこの施設への親しみを演出している。続くエントランスホールは、LVLの架構があらわしになっており、その構造の強さが空間に表情を与えている。そこからはあらかじめの所要室を認知することができる。複雑さが生み出す豊かさと、公共の施設としてのわかりやすさ（それは、快適さと言い換えることができ

ると思う）がバランスよく、同居した建築である。劇場は小ぶりながら、劇場らしい演出が施されている。ここでは毎年、人形劇の公演が行われるという。この劇場のしつらえは、設計者の全体を台形のピースで構成するというコンセプトからは逸脱して、円形の一部をそぎ落とした形をとり、劇場らしい雰囲気優先している。このような、建築としてあるデザインのクオリティを保ちながら、部分で実際の使いやすさ、楽しさを優先させている。それは使用者にとってわかりやすい建築ということであって、これが公共建築にとって実はもっとも重要なことなのだと実感させる建築である。

（篠原聡子）



南側外観全景



ステージより劇場背面をみる

（撮影/篠澤建築写真事務所）

建築文化賞

景観に配慮した建築物

海辺に甦った海鼠壁のある家

蔵替え (鴨川・質蔵のリフォーム)

建築主：石井 悦子

設計：野口修アーキテクツアトリエ

施工：ホームドクターハクモン株式会社

所在地：鴨川市



路地と蔵

かつて房州の海沿いの街並みによくみかけた海鼠壁が、いつの間にか消えて久しい。その残り少ない海鼠壁を側壁に残す築後100年の質蔵が、若い建築家の設計で建築面積85.5㎡、延床135.51㎡の2階作りの現代住居に甦った。

この建物は老朽化が進み、本来なら取り壊し対象であった。しかし廃棄物を少くして環境負荷を抑え、さらに建物が残す伝統的価値を、街並み景観や室内空間に生かすべきであるという施主と設計者の基本的合意があり、さらにその実現への努力成果として魅力的住居が再生された。

外装は瓦ぶき屋根と質蔵横の路地側側の海鼠壁を残し、県道沿いの正面は内部の採光と、目隠しをかねた杉材の縦格子で被い、伝統とモダンの融和が試みられた。

改築木材は千葉産の檜や杉材、地元の大工さんの協力もあって、内装は伝統的な小屋組みを見せ、高い天井と骨太の空間づくりに生かされた。さらに路地側の玄関正

面の壁面には、この家の歴史を語る質蔵扉が埋め込まれ、古い建具や家具も随所に再利用して、家を語り継ぐ住空間が演出されている。

近年、各地に伝統的街並み保存や古民家再生への取り組みが進むが、生活様式や設備工法の変化、さらには環境保全など「言うは易し行うは難し」の課題も多い。

大型建築に見る先端技術開発が進む一方で、施主、設計者、職人ともども伝統再考と建築再生工法にむけた誠実な努力は、誰にも理解できる身近な建築文化醸成への貴重な貢献といえよう。(野口 瑠璃)



県道側外観



雪見障子と坪庭

(撮影/野口修)

建築主：国立大学法人 東京大学

(計画コンセプト・建築設計ディレクション：大野秀敏+東京大学大野研究室)

設計：日本設計・大成建設設計共同企業体

施工：大成建設株式会社 千葉支店・株式会社関電工 千葉支店

所在地：柏市柏の葉5-1-5

環境に配慮した建築物

稀有なPFIで実現した環境建築の形

東京大学柏キャンパス新領域環境棟



方位毎に変えたルーバーと金属断熱サンドイッチパネルの織りなす外観

東大の真新しい柏キャンパスに出現したこの研究棟では、建築物の環境的な側面から様々なチャレンジが試みられている。独立行政法人化された国立大学の新設校舎としてPFIによる発注方式が導入され、そのプログラムづくりに大学ならではの工夫と努力が重ねられた。大学側の委員会は用途や空間プログラムはもとより、ほぼ基本設計レベルのエスキスを重ね、設計の大枠を綿密にスタディするとともに、その運用や維持管理に関する要件を詳細に設定し、それらをPFIの条件とした。応募グループに竣工後100年間にわたるLCCの試算を求めたことは、その信頼性はさておき事業の姿勢として象徴的である。

建築的には立体格子状の単純な主体構造にS字型の平面形状を与え、自然換気・自然採光の極大化を担保した。外見を特徴付ける外壁の随所に施された繊細な金属製外付けブラインドは単なる日射遮蔽だけではなく、太陽の角度に応じて微妙な反射光と陰影を生み、ローコストながら美しい立面を見せている。他にも様々な試みがあるが、空調範囲を

思い切って限定した結果生まれた内部ながら緩衝的な空間が各所にアクセントを与え、透明で明るい内部空間に変化を生み出している。優れた建築家、建築研究者集団が発注者側を構成することで実現した恵まれたケースである。

ただし、ローコスト化の結果随所に採用された外壁の既成断熱パネルや開口部のアルミサッシの接合部におけるヒートブリッジの恐れや、建設途上とはいえキャンパス全体の大味なマスタープランによる建物配置に対しては疑問を持つ審査員も多かった。これらへの答えは今後の熟成過程における事後評価の情報開示に期待したい。(岩村和夫)



頂部にベンチレーターを配した自然換気の要のアトリウム



金属断熱サンドイッチパネルはアルミサッシ固定。調望上部は屋上緑化

(撮影/川澄建築写真事務所)

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

伝統的景観と市民に開放された店先

山村邸

鉄道敷設まで利根川水運で栄えた旧佐原市の中心部は、かねてより伝統的景観整備事業を進め、近年次第に街の景観を甦らせて、年毎に観光客も増えていると聞く。

山村家は水郷佐原に代々続いた米問屋、街中より少し外れた銚子への街道筋の店構えは築100年、間口6間の大店である。店先の斜め前は、関東3大祭りでも高い佐原祭りの山車の曲角で、見せ場のひとつだという。

山村邸は家業を閉めて久しいが、軒先深い店先と土間、帳場があった小上がり座敷と鉄製金庫など、往時の姿のまま手入れよく保存されてきた。

この街とこの家を愛する施主は、中心部からは途切れがちになる景観形成への協力をめざし、この建築の単なる保存から歩を進めた街づくり参加を目標とした。

建物外観維持を守り、店先の深い軒下は通りと建物の間を自在にさせる格子戸で前面を囲み、在来の店戸を全面ガラス戸に変えた。これにより店内は昔姿を歩道からも覗ける小博物館、多目的小ギャラリーにも活用できる。

設計者の協力を得て、施主の願いは見事に市民への開放も成功させる好例となった。伝統は現代に生きてこそ価値がある実証として奨励賞の対象に評価された。(野口 瑠璃) (撮影/(株)スタジオ宙)

建築主：Y.M氏

設計：株式会社スタジオ宙

施工：岡野工務店

所在地：香取市佐原



景観形成道路からの住宅全景



1階道路側には、この町の伝統的な軒下空間にならって格子戸を設けた。現在はギャラリースペースとしても活用されている。

7

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

古民家をリフォーム・快適な住まいに

菊込邸

93歳のお父様が独りで暮らしていた家は、築後100年余を経過した古民家。長年の生活習慣から、北側の日の当たらない茶の間が生活の中心で、大きな段差に阻まれることもあり、閉じこもりがちな毎日だったという。

そろそろご自身の老後の暮らしを考え始めた息子夫婦との同居を機に、古民家の趣を生かしながら、最小限の予算でリフォーム。明るく、日当たりのよい、みんなが快適に過ごせる家が実現した。

木造平屋建て147.86㎡(改修前 145.10㎡)

南側の和室(客間)の設えはそのままにしながら、既存建物の間取りにとらわれず、水周りを中心に機能的な平面計画を取り入れ、居住性を高めている。建物の歴史を感じさせるどっしりとした大黒柱、蚕部屋を支えていた大きな梁が、リビングの東南に開けたウッドデッキと調和して、懐かしい雰囲気をかもし出している。

日当たりを優先に、全面的に撤去された土庇の役割(建物の佇まい・日照調整)、耐久性と維持管理を優先した内外装材の選択等に、もう一工夫欲しかったとの意見もあったが、高齢のお父様が「慣れ親しんだ我が家」で住み続けられるように、と多くの困難を乗り越えて、最善策を見つねがら実現した「快適な住まい」へのリフォームを高く評価したい。(夏目幸子)

建築主：菊込 佑

設計：株式会社ゆま空間設計

施工：杉田工務店

所在地：鴨川市



外観 茅葺屋根の形



天井大梁を現したリビング

(撮影/加瀬澤文芳)

建築主：医療法人 ^{みずきかい} 美篤会
設計：夏目設計事務所
施工：株式会社鈴木工務店
所在地：南房総市和田町松田714-1

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物
住宅のスケールと細部をもつグループホーム

グループホーム ^{うつく} 美しの里

「グループホーム美しの里」は、静かな住宅地の中に位置し、そのたたずまいも、やや大きな住宅のようであり、施設ではなく、より家に近い雰囲気をもとめたグループホームのコンセプトを体现している。

9人以下というグループホームの規定によって、「グループホーム美しの里」は1階と2階のそれぞれが独立した構成になっている。それぞれにゆったりとした食堂・居間をもち、各個室も各人の独立性をたもちながら、介護にあたる職員がさりげなく中の様子を知ることができるように工夫されている。廊下も各個室の扉に表情をもたせて、あるいは腰掛けられるコーナーを設けるなど、単なる通路にならない楽しい雰囲気がある。全体に、高齢者の施設を多く手がけた設計者の行き届いた配慮が感じられる建物である。

また、こうした施設がうまく運営されるためには、運営者と設計者のコラボレーションが重要となることは言うまでもないが、それも問題なく良質なグループホームとなっている。ただ、この種の同質な入所者をあつめた施設が、どのように地域との連携をはかり、より開かれた場所としてあるためには、さらに工夫が必要であろう。これは、「グループホーム美しの里」の問題というよりはグループホームというプログラムの問題でもあるのだが、建物のうしろにあった、小さな菜園などが、その意味ではもっと建物と連携して発展的に運営されると、そのような可能性もみえてくるのではないかと思えた。（篠原聡子）



地域との活発な交流の場
バスストップを設置



少人数のふれあいの場
廊下のアルコーブ（撮影/栗原宏光）

建築主：千葉市
設計：株式会社ティー・アンド・エム設計
施工：旭建設株式会社
所在地：千葉市若葉区野呂町622-10

建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物
「つどい・まなぶ・つなぐ」生涯学習施設

千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館

和瓦葺き切妻屋根の公民館棟とガラスの排気塔をもつ寄棟屋根の図書館棟を渡り廊下で接続したコミュニティ複合施設で、「つどい・まなぶ・つなぐ」をキーワードとする地域の生涯学習拠点施設である。

千葉市郊外の緑豊かな自然環境とよく調和する落ち着いたデザインでまとめられ、静寂な空間を求める図書館棟と和室は国道の騒音から遠ざけるために敷地の奥に配置し、緑を取り込んだ中庭と一体感をもたせている。

ラウンジは十分なスペースを確保し、開放的で明るい市民の交流空間として多目的利用に供している。

各室内は温もりが感じられ人に優しい木質系を多用し、外壁や軒天井にも県内産の木材や珪藻土、リサイクル製品などを使用して地球に優しい建築を目指すとともに、太陽光発電や地下貯水槽を設けて雨水再利用を図るなど、自然エネルギーの活用にも取り組んでいる。

欲を言えば、図書館の木造小屋組全体を見せて、より直截な構造美を表現した方がよかったのではないかと。また、和室屋根の空調屋外機が目隠しの扱いに配慮が欲しかったとの審査員の声もあった。残念ながら文化賞には届かなかったが、設計者の今後の活躍に期待したい。（明智克夫）

（撮影/ABE写真工房）



公民館・図書館全景



方形の屋根を支える構造材を見えるようにデザイン

13回応募(推薦)建築物一覧(地域・市町村別) (60作品)

応募された作品は、それぞれ優れた配慮や特長がありました。
作品に携わられた皆様に敬意を表し、ますますの御活躍を期待しています。

※ ○は、表彰の対象となった作品です。
※ ☆は、現地調査の対象となった作品です。
※ 作品には、部門等に重複して応募したものが
あります。

【千葉市】20作品

汐見丘の小さな家	中央区
Se +	中央区
千葉県土地家屋調査士会館	中央区
宗教法人生長の家	中央区
学校法人中村学園1号館	中央区
フクダ電子アリーナ	中央区
PETIT Monde	花見川区
長作の家	花見川区
オーラッシュ千葉	稲毛区
千葉経済学園キャンパスー高等学校新校舎ー	稲毛区
千葉経済学園キャンパスー大学生学生ホールー	稲毛区
千葉経済学園キャンパスー短期大学部新体育館ー	稲毛区
○千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館	若葉区
笠原邸	若葉区
BB HOUSE	緑区
あすみが丘の家	緑区
学校法人中村学園長柄町実習場	緑区
幕張西の家	美浜区
○千葉市立美浜打瀬小学校	美浜区
千葉トヨペット幸町店	美浜区

【千葉地域】2作品

FLAT・Y	習志野市
杏 保育園	市原市

【東葛飾地域】16作品

階段の家	市川市
真間の家	市川市
南行徳カルテット	市川市
☆有料老人ホーム プレジールヴィラ市川	市川市
☆飯山満の家	船橋市
東京理科大学コミュニケーション棟	野田市
里区自治会館	野田市
柏市立柏第四小学校屋内運動場	柏市
○東京大学柏キャンパス 新領域環境棟	柏市
トラスコ中山プラネット東関東	松戸市
H-HOUSE	流山市
布佐駅東口エスカレーター・エレベーター	我孫子市
☆たんぼ広場作業小屋	我孫子市
我孫子市近隣センターこもれび	我孫子市
新浦安駅前プラザ	浦安市
千鳥学校給食センター	浦安市

【印旛地域】4作品

大屋根の家	成田市
Jammy	成田市
志津大山記念会福祉施設	佐倉市
佐倉の家	佐倉市

【香取地域】3作品

佐原 千与福	香取市
○山村邸	香取市
クラインガルデン栗源	香取市

【海匠地域】4作品

Balcony-House	銚子市
すこやかな まなびの城	銚子市
篠塚邸	銚子市
そうさ めくもりの郷	匝瑳市

【山武地域】2作品

☆山武青い鳥の家	大網白里町
季美の森幼稚園	大網白里町

【夷隅地域】1作品

加藤邸	勝浦市
-----	-----

【安房地域】7作品

やいろデイサービス	鴨川市
○蔵替え(鴨川・質蔵のリフォーム)	鴨川市
城西国際大学安房キャンパス観光学部	鴨川市
○刈込邸	鴨川市
はた動物病院別棟・専用住宅	南房総市
○グループホーム美しの里	南房総市
○とみうら元気倶楽部	南房総市

【君津地域】1作品

さつき会 袖ヶ浦さつき台病院	袖ヶ浦市
----------------	------

千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学工学部教授
副委員長 岩村 和夫：武蔵工業大学環境情報学部教授

委員 明智 克夫：社団法人千葉県建築士会会長
委員 篠原 聡子：日本女子大学家政学部助教授
委員 夏目 幸子：建築家・千葉県医療技術大学校講師
委員 野口 瑠璃：工業・環境デザイナー

【敬称略 委員は五十音順】

受賞作品の位置

建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数

千葉市	17
習志野市	1
八千代市	1
市原市	3
市川市	2
船橋市	4
松戸市	3
野田市	2
柏市	2
流山市	1
浦安市	2
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	1
印西市	3
白井市	1
栄町	1
本埜村	2
香取市	3
東金市	2
大網白里町	1
大多喜町	2
いすみ市	1
鴨川市	3
南房総市	3
鋸南町	1
木更津市	3
君津市	1
計	68



第13回千葉県建築文化賞

- ① 千葉市立美浜打瀬小学校
- ② とみうら元気倶楽部
- ③ 蔵替え(鴨川・質蔵のリフォーム)
- ④ 東京大学柏キャンパス 新領域環境棟

第13回千葉県建築文化奨励賞

- ⑤ 山村邸
- ⑥ 刈込邸
- ⑦ グループホーム美しの里
- ⑧ 千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館

★は1～12回の建築文化賞受賞作品

千葉県建築文化賞の実績(応募点数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞				建築文化奨励賞
			景観に配慮	ユニバーサルデザインに配慮	環境に配慮	計	
1	H6	192	3	3	—	6	—
2	H7	73	3	3	—	6	—
3	H8	83	3	2	—	5	4
4	H9	87	4	1	—	5	5
5	H10	106	2	0	2	4	5
6	H11	101	2	2	2	6	3
7	H12	63	3	1	2	6	4
8	H13	88	2	2	2	6	2
9	H14	71	2	1	2	5	4
10	H15	79	3	2	0	5	4
11	H16	63	1	2	1	4	3
12	H17	92	3	1	2	6	1
13	H18	71	3	0	1	4	4
1～13	計	1,169	34	20	14	68	39

※1「建築文化奨励賞」は、第3回に創設。

※2「環境に配慮した建築物の部」は、第5回に創設。

※3「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」は、第12回に創設。(第11回までは、「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」)

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。

その間、県下の広い地域にわたり、68の建築物が建築文化賞を受賞され、それぞれの地域に根付いています。

第14回の作品募集は、平成19年夏ごろに行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

お問い合わせ先

千葉県県土整備部建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3186 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101